

テアトル9ニュース

お芝居大好き！九条の会

2013年7月18日発行

第50号！



☆ 2004年、井上ひさし、大江健三郎等9名の著名人が日本国憲法九条を守る「九条の会」を結成。その呼びかけに応え、演劇鑑賞会の会員有志で2005年「お芝居大好き！九条の会～テアトル9」を作りました。

みなさん 参院選挙結果どう思われましたか

50号を記念して、憲法をいっそう深く学び 9条の運動を地道に広げましょう

今日から5年前の2008年4月、航空自衛隊のイラクでの空輸活動に対して、名古屋高裁は憲法第9条第1項が禁じた「武力行為」にあたるとして、憲法違反の判決を下しました。この時の弁護団の川口創弁護士は、「週刊金曜日」(6・28号)で、自民党憲法改正草案は、現行憲法の「国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は」「永久にこれを放棄する」とあったのを、「戦争」と「武力による威嚇又は武力の行使」を別々に切り離していると指摘しています。それは、「永久に放棄する」は「戦争」だけに限定し、「武力による威嚇又は行使」は単に「用いない」という曖昧な表現にしていると。つまり、「戦争はしないが武力行使はする」ということになりかねない「草案」になっています。

さらに川口氏は、この判決は、日本国憲法が「リニューアルされ、発展させて獲得される」ものとして高く評価しています。それは、憲法前文にある「平和のうちに生存する権利」、すなわち平和的生存権を初めて認められたという点です。平和的生存権は、今日のように自衛隊が海外派兵され、なおかつ集団的自衛権が作られようとしている時、「戦争の犠牲者にも、加害者にもならない権利」としての平和的生存権こそ、21世紀の新しい権利であり、それは憲法こそが、21世紀の安全保障になりうると言っているように思えます。

7月号で、このニュースは50号になりました。参議院議員選挙後、憲法を巡る状況は厳しくなるでしょう。しかし、憲法はいっそう輝きを増しています。私たちはこの憲法を深く、広く学び、再発見し、生活や文化を守るものとして、9条の会の運動をこれからも粘り強く積み重ねていきましょう。

非戦を選ぶ演劇人の会 ピースリーディング in 大阪

「いま、憲法のはなし ―戦争を放棄する意志―」公演を観て



プロレス会場のように、中央の白い舞台の四方を客席が囲む。この朗読劇はその「リング」の上で、「日本国憲法」君と「自民党憲法改正草案」さんらが対峙する構図をとり、ベアテ・シロタ・ゴードンや井上ひさし、石破茂、橋本徹ら60以上の実在の人物たちの、憲法に関する実際の発言を引用し、構成されている。

例えば、「戦後レジームからの脱却」を叫ぶ安倍晋三に対し、「憲法が一度も改正されなかったのは、発議要件が厳しかったからではなく、国民がそれを望まなかったから」(伊藤真)や「国が人々の生活を守らなくなった時、自由と平等を制限し始めた時、基本的人権を尊重しなくなった時、平和は死ぬ」と反論。また「平和のための9条改正」という改正案の詭弁には、「アメリカの同盟軍として戦争をしようということ」(澤地久枝)、「戦争をやめるには、武器を持たないことが一番の保証になる」(幣原喜重郎)と斬りこむ。

過去から現在、条文を多角的方面から照射する事により、今、日本国憲法がさらされている危機をあぶりだす。しかし、最終盤、憲法君の周りにいた人たちは、自民党を推す世論を前に、彼の元を去っていく。

「現実に合わせて憲法を変えたら現実是不変。憲法に合わせて現実を変える。それで未来が変わる」、「あなたがどうするかですよ」。その呼び掛けに、一人またひとり舞台に戻り、最後は出演者全員(23人)で憲法前文を朗唱、幕となる。他人事ではなく、憲法は私たちの身近に、いや、私たちの生活そのものだ。めげそうになった時、前文を声を出して読んでみよう。日本国民としてどうあるべきか、自らを奮い立たせてくれる。

本作の上演台本は、演劇人の会HPから、自由に読めます。ぜひ、一読を。

(大谷紫乃)



新コーナー始まりました！！

神戸演劇鑑賞会（旧神戸労演）は来年創立 60 周年を迎えます。そこで、会員の方々から、今まで観続けてきた中で、平和を考えさせてくれたお芝居との出会いを募集し、このコーナーで紹介していきたいと思ひます。

今回は初代委員長であり、朗読劇「凍土に生きて」の原作者 細川さんをお願いしました。



～芝居と平和 ①～

1956年神戸労演第16回例会『土』 劇団「演出劇場」公演

この年の2月12日は昼過ぎから猛烈な吹雪になった。御影公会堂には暖房設備が無い。満員の会員は震えながら舞台を眺めていた。

舞台は農民文学最高峰、長塚節の作品だけに貧農の苦しみ、貧しさ故での父子、夫婦の絆の歪みが胸に迫る。夕暮れ、与吉の過ちで勘次の家を焼く。首を吊ろうとして倒れた父、卯平に向かって勘次は言う「お父ッ、おらが田んぼの一枚でも持ってたらナアおめえさに苦労かけねんだ」客席では目頭を抑える。妻おつぎが薪を割りながら言う「持つべえな、一生懸命働いて」ここで幕が静かに降りる。すすり泣き、嗚咽が客席を覆う。私も感極まって大粒の涙を流した。

この時、私はシベリア抑留から帰国6年目、労演結成2年目の冬でした。始めて観た『土』の感動は、日本が平和な国だからこそ受け止めることが出来たのです。「平和」を守ることは、良い演劇を守ることでもあります。（細川俊三）

※ 皆さまからの投稿お待ちしております。

字数＝400字 神戸演劇鑑賞会事務局宛 FAX : 078-222-8653 Eメール : kobeenka@nifty.com



九条の会ひがしなだ

8月特別企画「被爆の実相」

8月4日(日) 14:00開演

(13:30開場)

東灘区民センター9階多目的ホール

(JR住吉駅東へ3分)

語り部 竹本成徳さん

(ユニセフ会長、元コープこうべ理事長)

西神九条の会 ★連続憲法講座

西区民センター 第2会議室

7月27日(土) 14時～16時

「国民の義務と基本的人権の保障」

講師は吉田維一(ただいち)弁護士です。

※参加料無料

本の紹介 ～～～

『永遠の0』 百田尚樹 著

太田出版 本体 1600 円(文庫¥920)



例会場「テアトル9コーナー」に

お立ち寄りください！

テアトル9グッズのプラバン、また賛同者の方にはニュースをご用意しています。カンパも大歓迎！

連絡先は

児玉 090-8209-2391

米田 090-8658-8579

谷中 090-2101-4579



朝日放送「探偵ナイトスクープ」の脚本家でもあった著者。12月に同名映画が上映予定の大人気ですが、その題名から、「ゼロ戦はすごいとか、どうせ戦争賛歌でしょ?！」と拒絶反応丸出しの私に、「自分の守備範囲外の本も読んでごらん」と貸してくださいました。確かに私の本の好みは偏っている…、しびしび読み始めました。感想は、手放して良い本だとは言いませんが、読んで良かったと思ひました。「必ず帰る」と妻に約束したゼロ戦パイロットの宮部、彼の戦友たちを訪ね歩く孫、祖父は英雄？卑怯者？今の祖父は何者？最後の大どんでん返し。ちなみに本書は神戸市立図書館で予約五百人、講談社文庫の方は千人待ちの人気です。でも本当は、百田さんの新刊『海賊と呼ばれた男』の方が手放しでおすすめ！です。(H)